

第 2 章

都市の現況

2-1 志免町の概要

2-2 都市の現況把握

2-3 町民意向の把握

2-4 志免町の特性と課題

...

SHIME TOWN CITY PLANNING MASTER PLAN



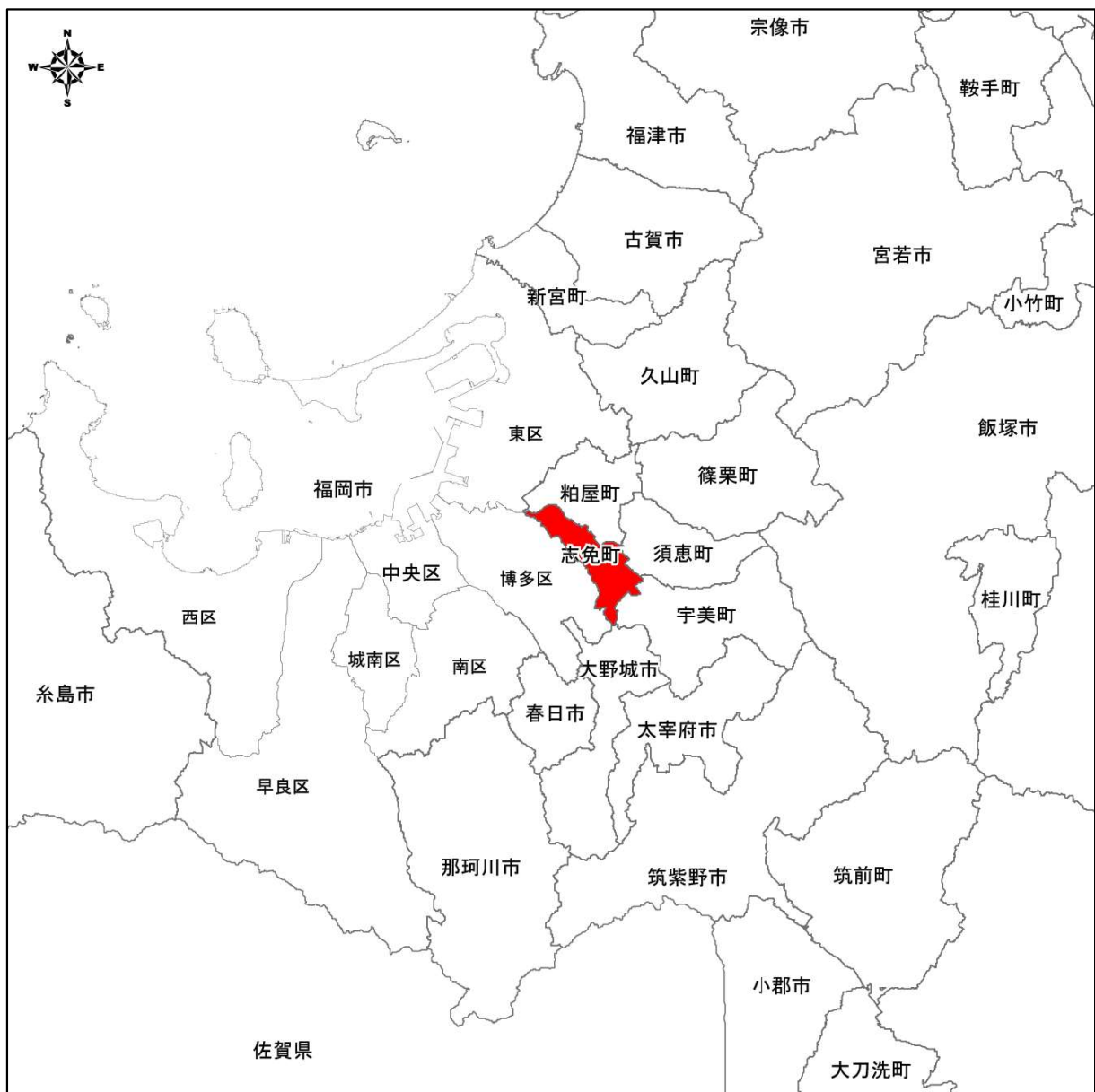
2-1 志免町の概要

(1) 位置

本町は、福岡県の西部、福岡都市圏のほぼ中心の位置にあり、南北に細長い町域を有し、総面積は8.69 km^2 と県下で3番目に小さい町です。

町域の西側は、福岡市博多区に接しており福岡空港と近接しています。南側は大野城市と宇美町、北東側は粕屋町と須恵町に接しています。

福岡市に隣接する立地特性から、人口は増加傾向にあり、県道福岡東環状線や県道福岡太宰府線などの幹線道路※の整備に伴って、土地利用の更新も進みつつあります。

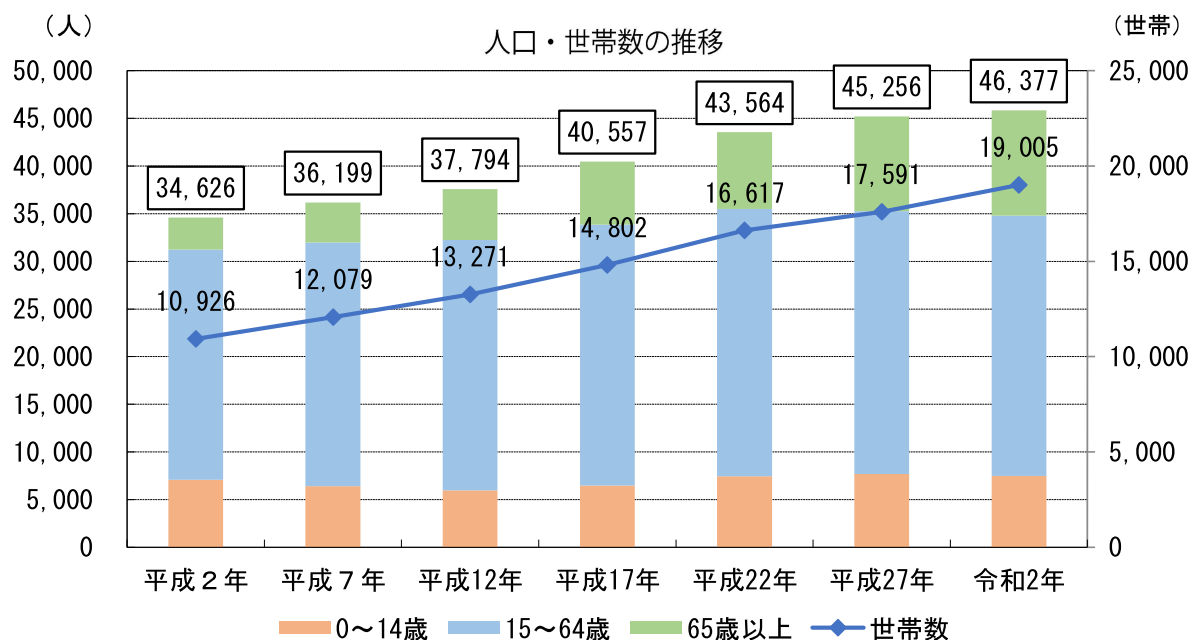


2-2 都市の現況把握

(1) 人口・世帯数

①人口・世帯数の推移

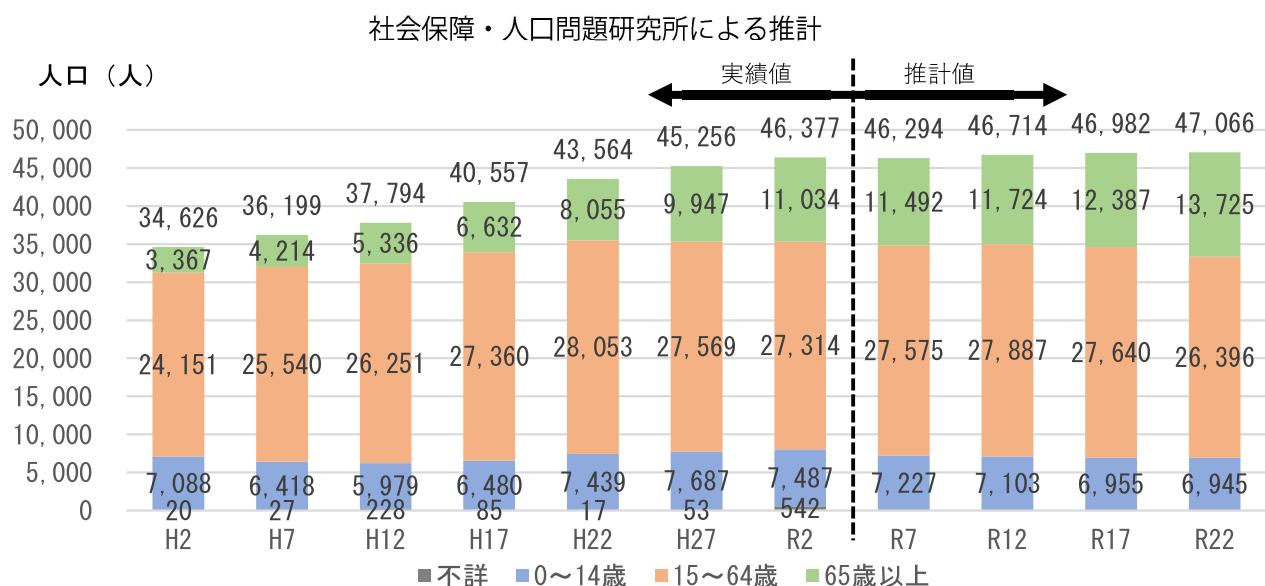
全国的に人口減少が進んでいるものの、本町の人口及び世帯数は、昭和 55 年以降、ともに増加傾向にあり、令和 2 年時点で 46,377 人、19,005 世帯となっています。



②将来人口の見通し

本町の将来人口は、社会保障・人口問題研究所の推計によると、年々増加し、約 20 年後の令和 22 年には、47,066 人まで増加すると予想されています。

令和 2 年の国勢調査では、推計における令和 7 年の人口をすでに上回っている状況にあります。



※令和 7 年以降は、平成 27 年までの国勢調査の実績値を基に推計されたデータとなっている。

③地区別人口密度

<地区別人口密度>

平成27年の地区別の人口密度を見ると、福岡市博多区に隣接し、福岡空港駅に近い別府西地区や、集合住宅群が立地する坂瀬地区、松ヶ丘地区において高くなっており、100人/haを超えています。町内は、7割を超える地区が40人/ha以上の人口密度となっており、人口密度20人/ha未満の地区は、一部に限られています。

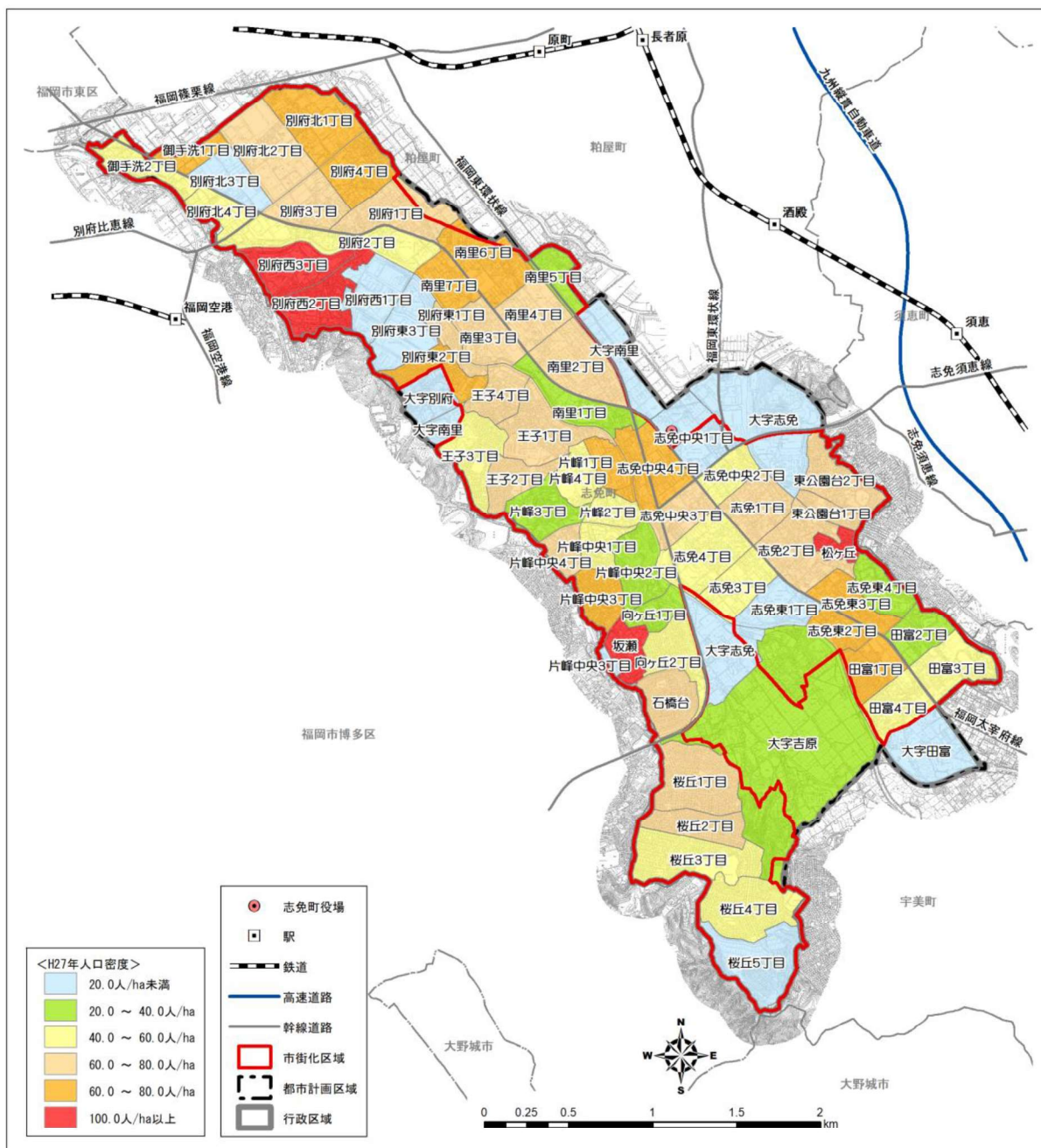


図 平成27年地区別人口密度

資料：国勢調査

④流入・流出

本町に居住している就業者は、平成2年以降増加傾向にあり、平成27年には21,018人となっています。このうち、13,442人が本町以外で働いています。また、町外から本町に働きにくる就業者数は8,627人となっています。

流出・流入先については、ほとんどが近接した市町村からとなっており、福岡市との結びつきが最も強い状況にあります。

■流出・流入別人口

年	常住地による 就業者数 (人)	流 出		従業地による 就業者数 (人)	流 入		従／常 就業者 比率 (%)
		就業者数 (人)	流出率 (%)		就業者数 (人)	流入率 (%)	
平成2年	16,495	9,987	60.5	13,412	6,904	51.5	81.3
平成7年	18,168	11,166	61.5	14,799	7,797	52.7	81.5
平成12年	18,652	11,769	63.1	15,222	8,339	54.8	81.6
平成17年	19,362	12,160	62.8	16,205	9,003	55.6	83.7
平成22年	20,091	13,244	65.9	15,546	8,409	54.1	77.4
平成27年	21,018	13,442	64.0	16,282	8,627	53.0	77.5

資料：国勢調査

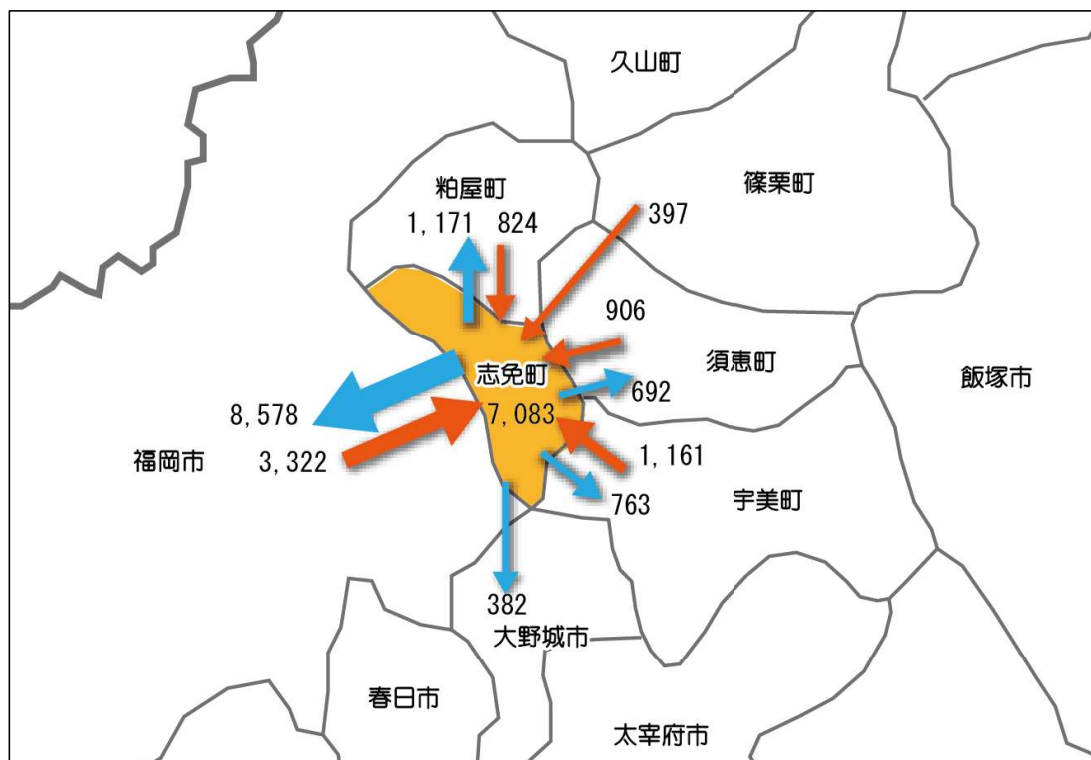


図 平成27年流出流入先

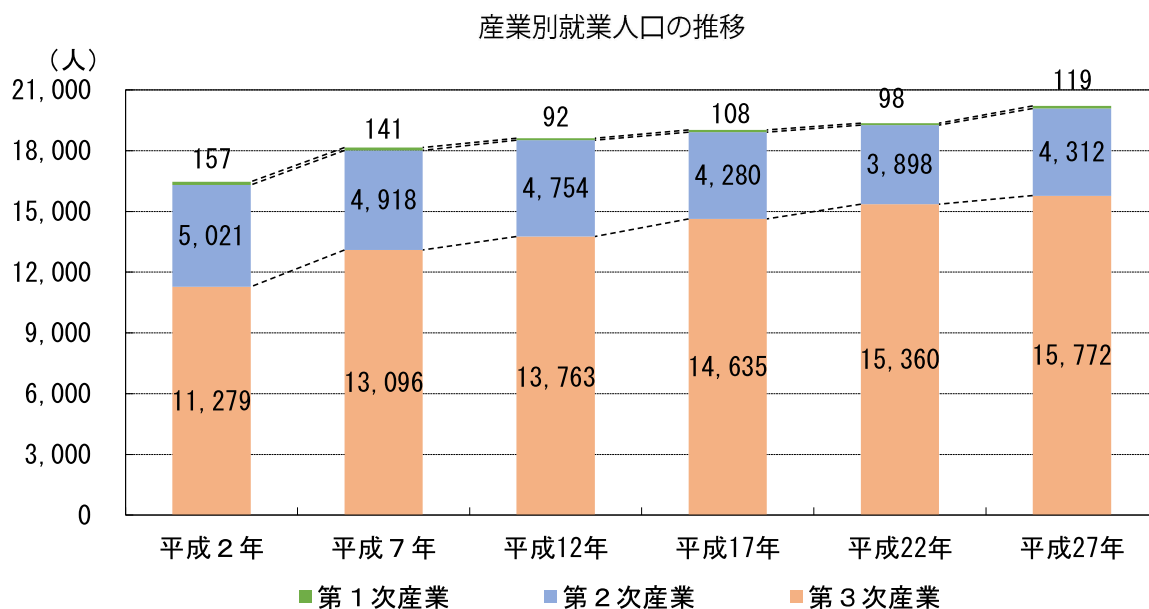
資料：国勢調査

(2) 産業

① 産業別就業人口の推移

平成2年から平成27年までの就業者数の推移を見ると、増加傾向にあります。

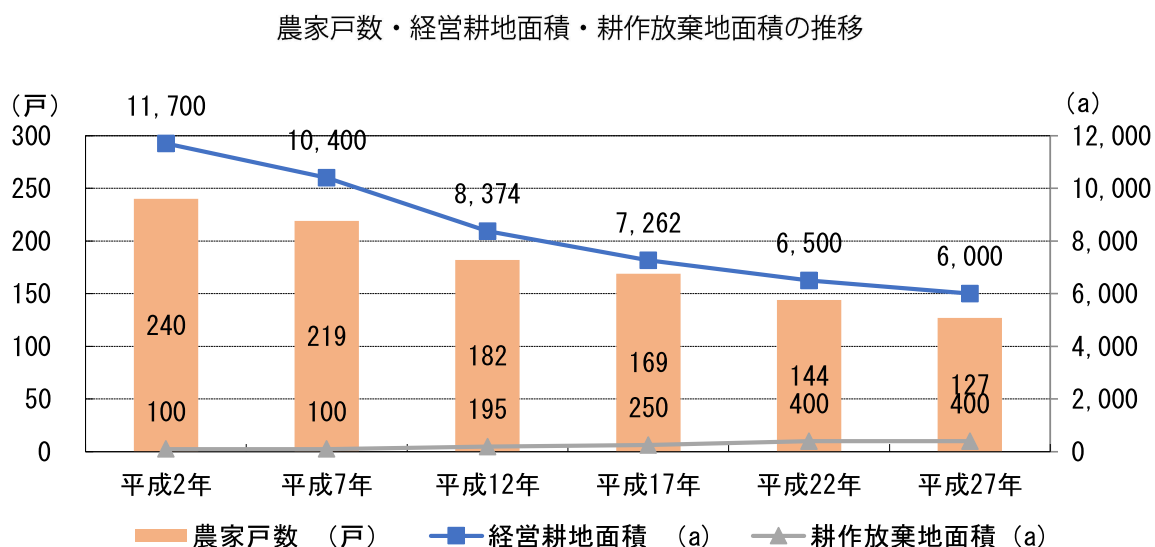
産業別就業者数は、平成27年時点で、第1次産業119人、第2次産業4,312人、第3次産業15,772人となっており、第3次産業の就業者が最も多くなっています。



資料：国勢調査

② 農業

本町における農家戸数、経営耕地面積はともに減少傾向にあり、平成27年には、平成2年の約半数にまで減少しています。耕作放棄地は増加傾向にあり、平成2年の4倍にまで増加しています。



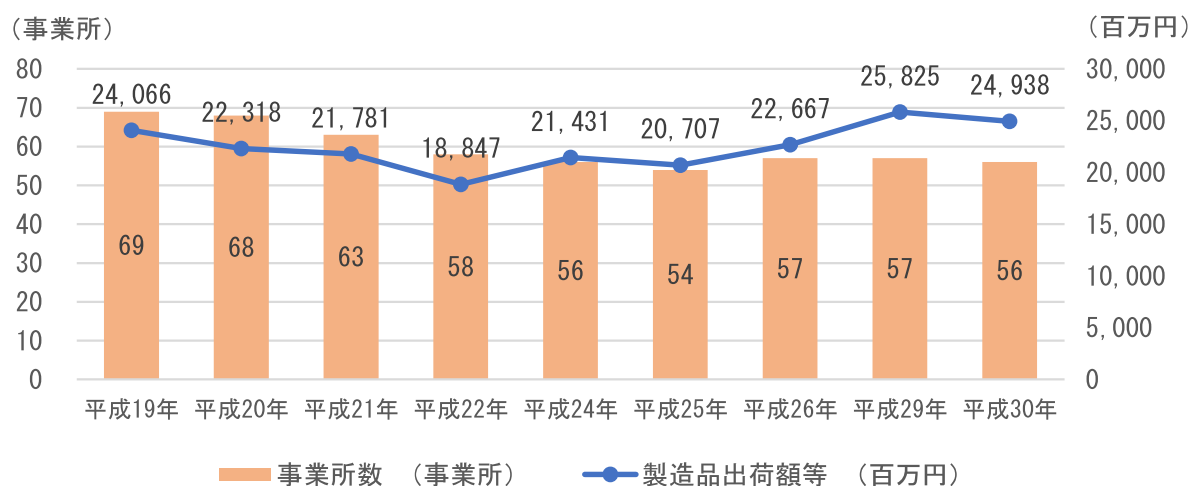
資料：農林業センサス

③工業

工業関連事業所数は、平成 19 年から平成 22 年まで減少傾向にありましたが、それ以降は横ばいとなっています。

また、製造品出荷額等については、事業所数と同様に平成 22 年までは減少傾向にありましたが、それ以降は、やや増加傾向に転じています。

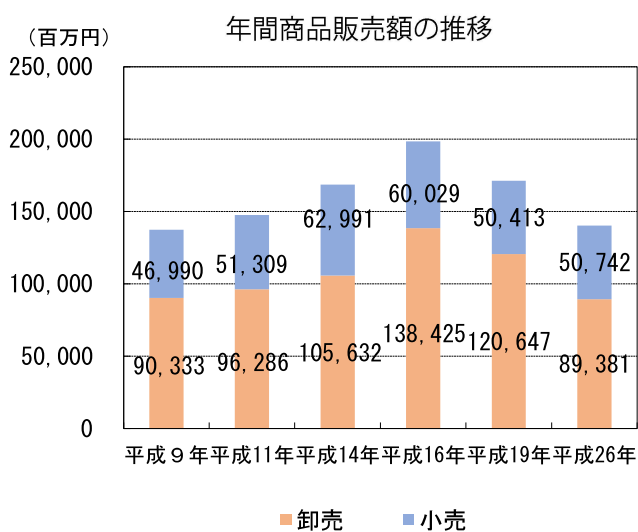
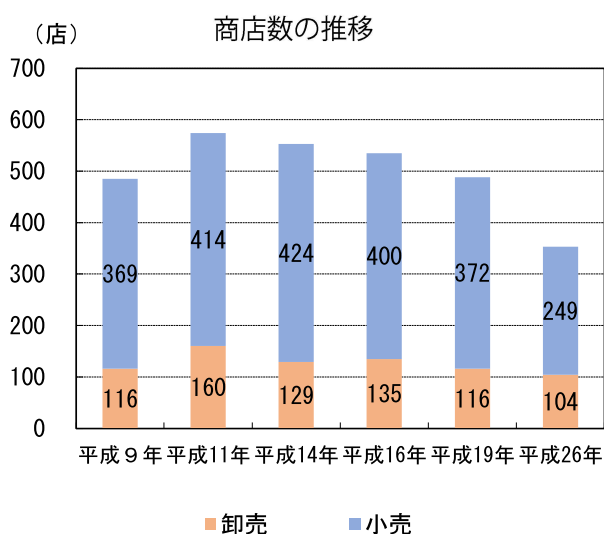
事業所数及び製造品出荷額等の推移



資料：工業統計調査

④商業

商店数、年間商品販売額の平成 9 年から平成 26 年までの推移を見ると、ピーク時にずれはあるものの、近年は減少傾向に転じています。隣接する市町村の大規模店舗の出店などもあり、平成 26 年時点で、商店数はピーク時の 6 割程度、年間商品販売額については 7 割程度まで減少しています。



資料：商業統計調査

(3) 土地利用

① 土地利用現況

本町の土地利用の現況は、約 8 割が都市的土地利用となっており、そのうち約 6 割を宅地が占めています。

県道福岡東環状線及び県道福岡太宰府線の沿道に商業用地が多く集積し、工業用地は、別府北地区や別府西地区に比較的規模の大きなものが見られます。大字志免地区や南里地区、田富地区には、比較的規模の小さな工業用地が点在しています。市街化調整区域※の土地利用は、田や山林、公益施設用地が多くなっています。

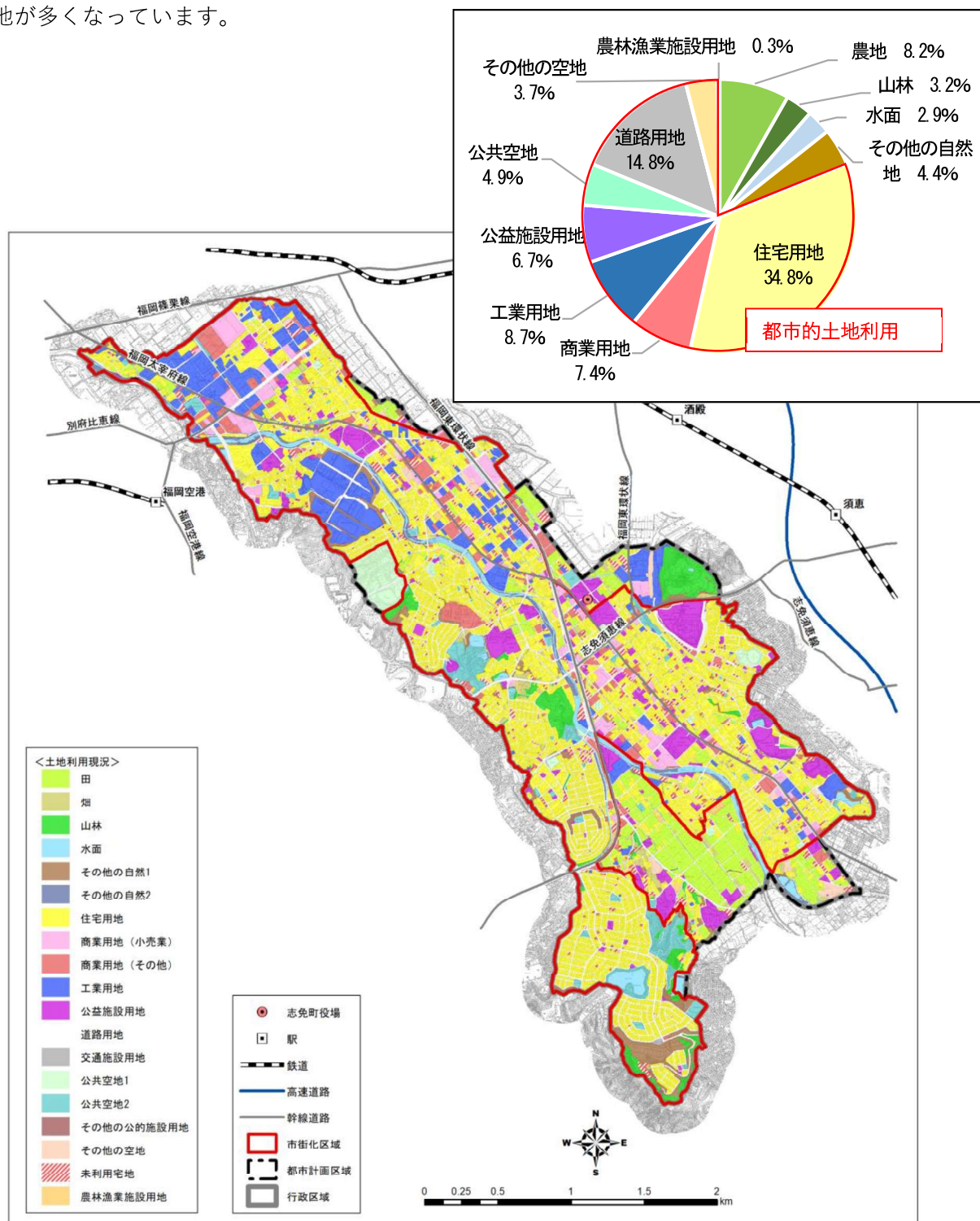


図 土地利用現況

資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

②未利用地現況

市街化区域内の未利用地は、市街化区域内の約 6%となっており、比較的小さな規模のものが各地に点在しています。未利用地の内訳は、未利用宅地が最も多く、未利用地全体の半分を占めており、次に田、畑、その他の空地の順となっています。

■平成 29 年未利用地面積

土地利用種別		面積 (ha)	構成比 (%)
未利用地	田	10.6	1.51
	畑	7.0	1.00
	その他の空地	2.5	0.36
	未利用宅地	20.2	2.88
	計	40.3	5.74
市街化区域		702.0	100.00

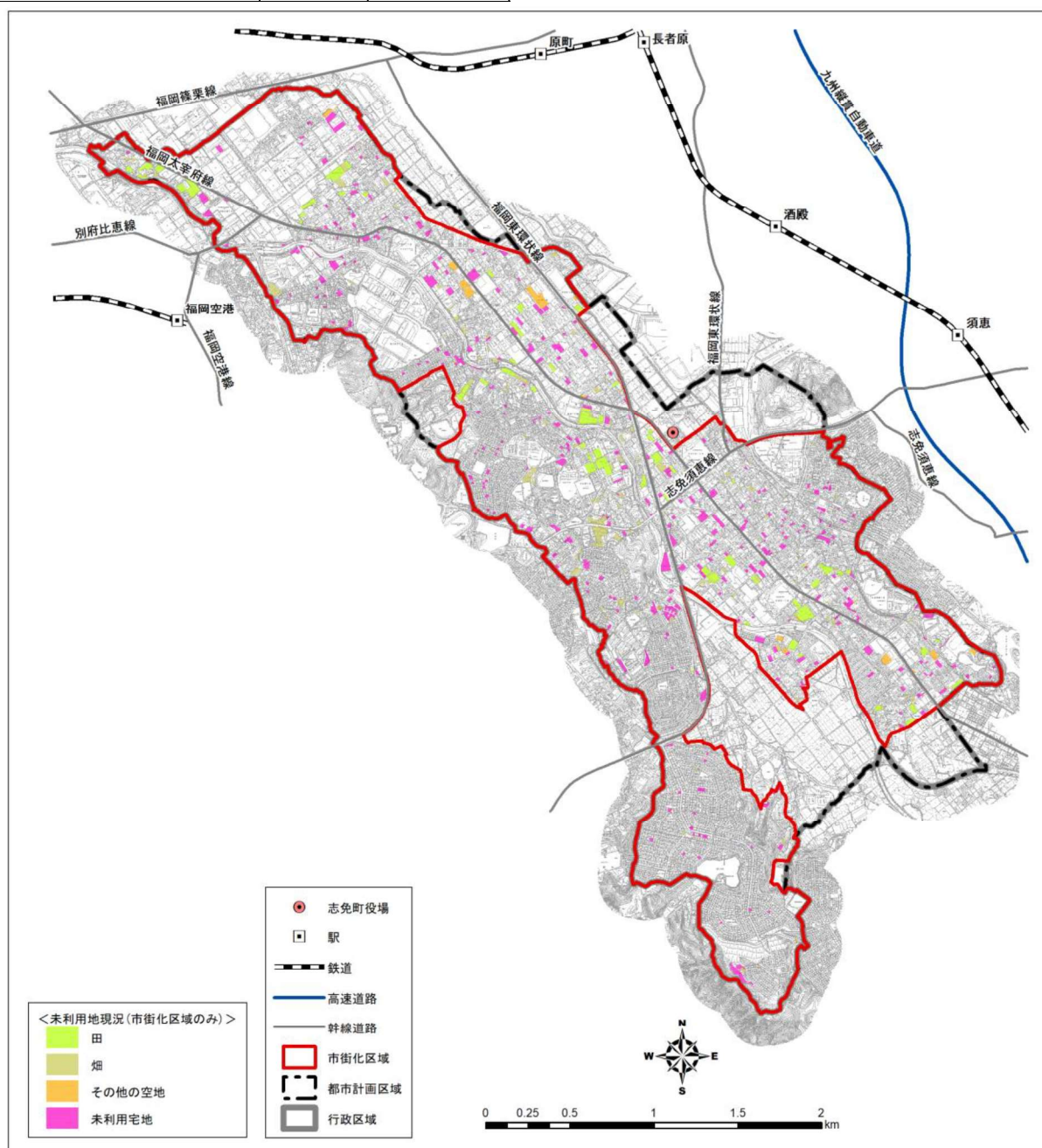


図 未利用地現況

資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

(4) 公共交通

① 公共交通の状況

本町の公共交通は、バス交通のみで、幹線道路を中心に路線バスが運行している他、それを補完するように福祉巡回バス※が運行し、町内各地で公共交通が利用できる状況となっています。

路線バス停から 500m 圏を公共交通の利便性の高い範囲とすると、亀山工業団地の一部や南部の市街化調整区域を除き、公共交通の利便性は高い状況にあります。

路線バス停から 300m 圏を見ると、南里地区や別府西・東地区、王子地区、大字吉原地区では、圏域内に含まれていない場所があるものの、福祉巡回バスの運行が見られます。

町内に鉄道は運行していないものの、地下鉄空港線の福岡空港駅までは、バスでアクセスしやすい状況にあります。

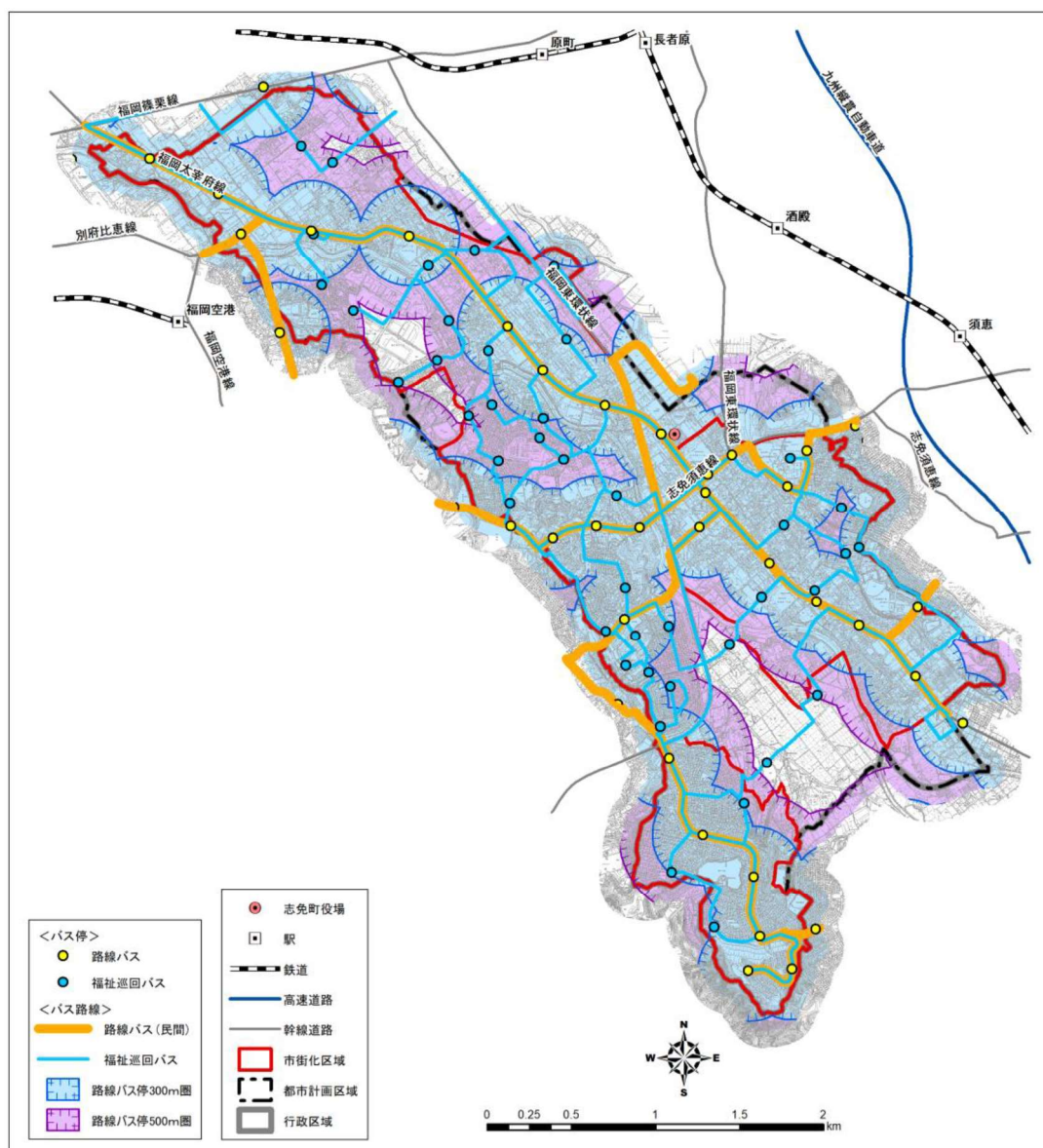


図 バス路線状況

資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

※500m 圏域：高齢者の徒歩圏域

※300m 圏域：一般的なバス利用者の 90%の方が抵抗感なく無理なく歩けるバス停までの距離

②バスの運行状況

本町の路線バスの平日 1 日当たりの運行本数は、少ない路線で 10 本以上、多い路線では 300 本以上となっており、特に、本町と天神や博多駅方面を結ぶバス路線は 100 本以上と充実しています。

福祉巡回バスのみのルートについては、1 日 4 本～24 本程度運行しており、路線バスがない地域の重要な交通手段となっています。

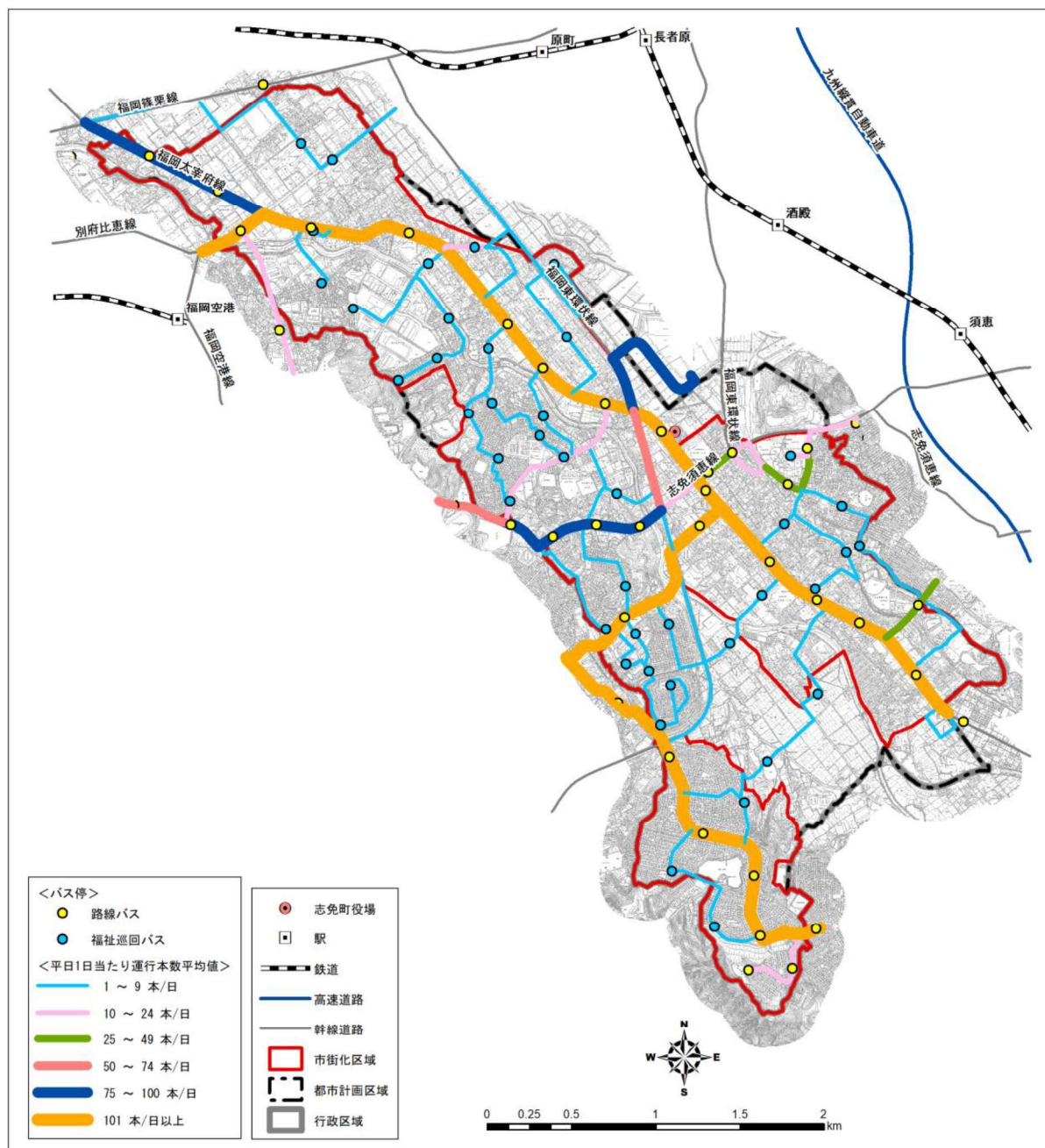


図 バスの運行状況

資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

(5) 都市施設

① 道路網

道路幅員別の状況を見ると、12m以上の道路は、県道福岡東環状線、県道志免須恵線、県道別府比恵線、町道中ノ坪・横枕線等の幹線道路の一部に限られています。

町内の多くは、4m以上 12m未満の道路幅員となっていますが、4m未満の道路も各所に見られます。

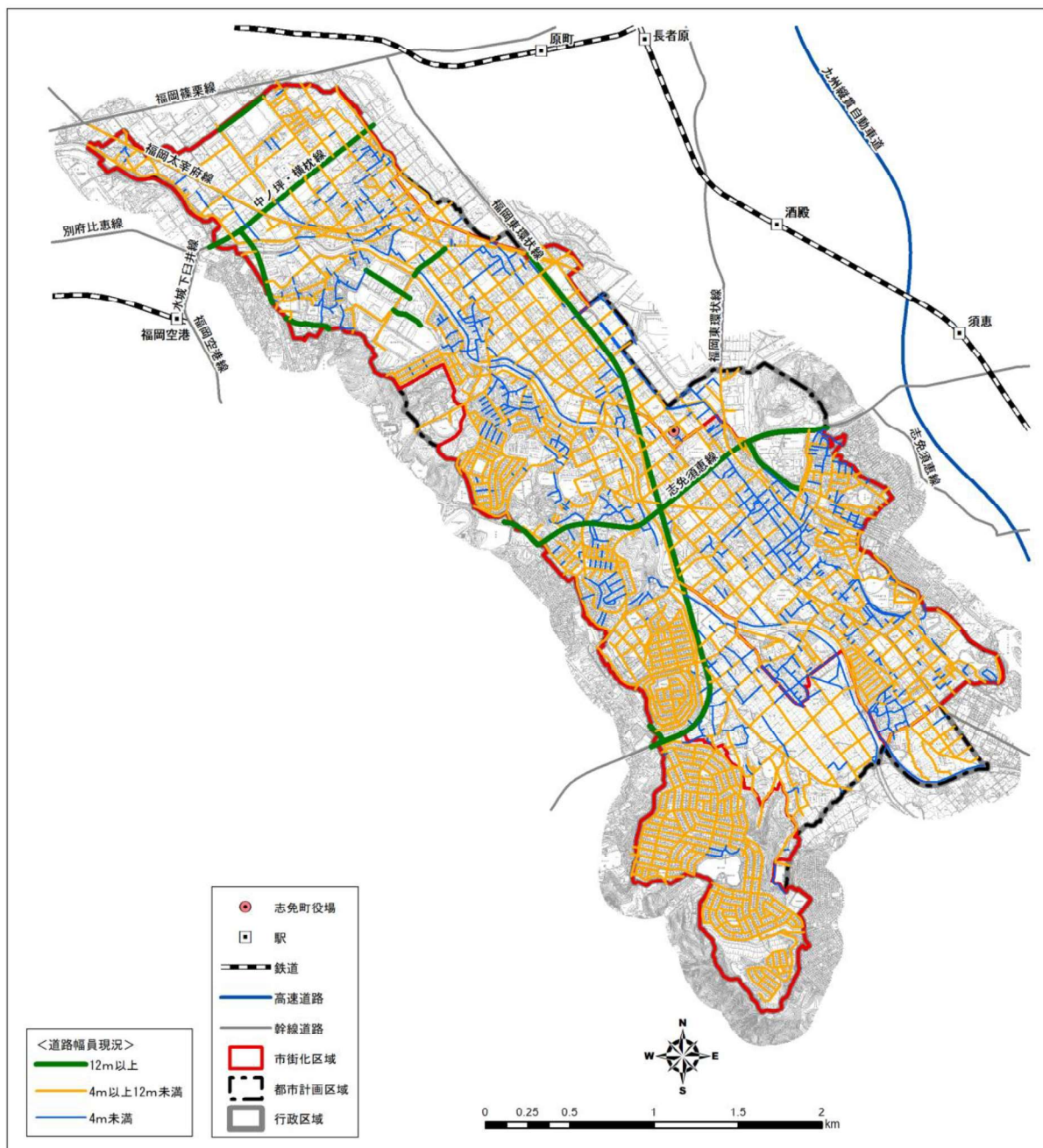


図 幅員別道路網

資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

②都市計画道路

本町の都市計画道路※は、平成 16 年以降整備が進んでおらず、整備率は 67.5%となっています。

周辺市町と本町を結ぶ（都）志免宇美線、（都）吉原須恵線、（都）南里新大間線、（都）南里東平尾線が未整備路線として残っています。

■都市計画道路の整備状況

都市施設名称	計画延長 (m)	幅員 (m)	事業期間	整備率
3・2・1-12 井尻粕屋線	3,310	32	S58～H16	100%
3・3・1-28 博多駅志免線	1,150	25	S58～H2	100%
3・3・1-35 席田浦田線	530	25	S58～H2	100%
3・3・1-39 志免宇美線	1,700	25	—	0%
3・4・1-141 坂瀬片峰線	780	16	S58～H2	100%
3・4・1-67 南里新大間線	180	16	—	0%
3・4・1-69 南里東平尾線	1,200	16	—	0%
3・4・1-70 志免植木線	1,100	16	S60～S62	100%
3・4・1-71 坂瀬線	570	16	H2～H11	12.3%
3・4・1-72 吉原須恵線	850	16	—	0%
合計	11,370			67.5%

※整備率は、整備済み面積の割合

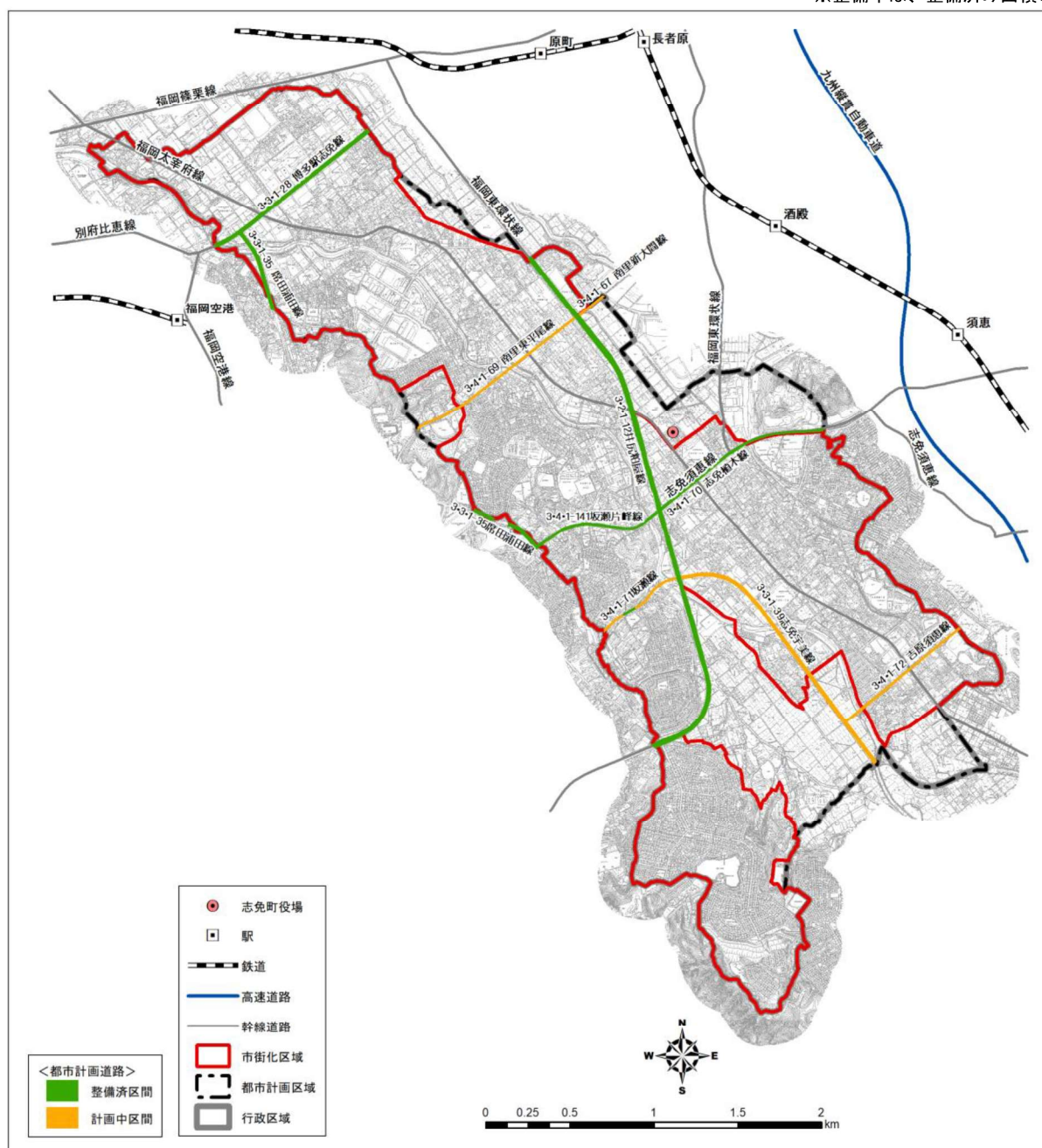


図 都市計画道路の整備状況

資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

③公園・緑地

本町の都市公園は、街区公園※31箇所、近隣公園※等の公園が12箇所、合計43箇所整備されており、町役場より南部の地域の整備率が高い状況にあります。

市街化区域内の北部は、公園の利用を想定する範囲（公園誘致距離）に含まれていない地域が見られます。

■都市公園整備状況（令和2年度）

種別		箇所数	面積（ha）
住区基幹公園	街区公園	31	7.41
	近隣公園	4	9.55
	地区公園	2	13.23
都市基幹公園	総合公園	1	11.00
特殊公園	歴史公園	1	0.26
都市緑地		3	1.74
緑道		1	3.39
合計		43	46.58

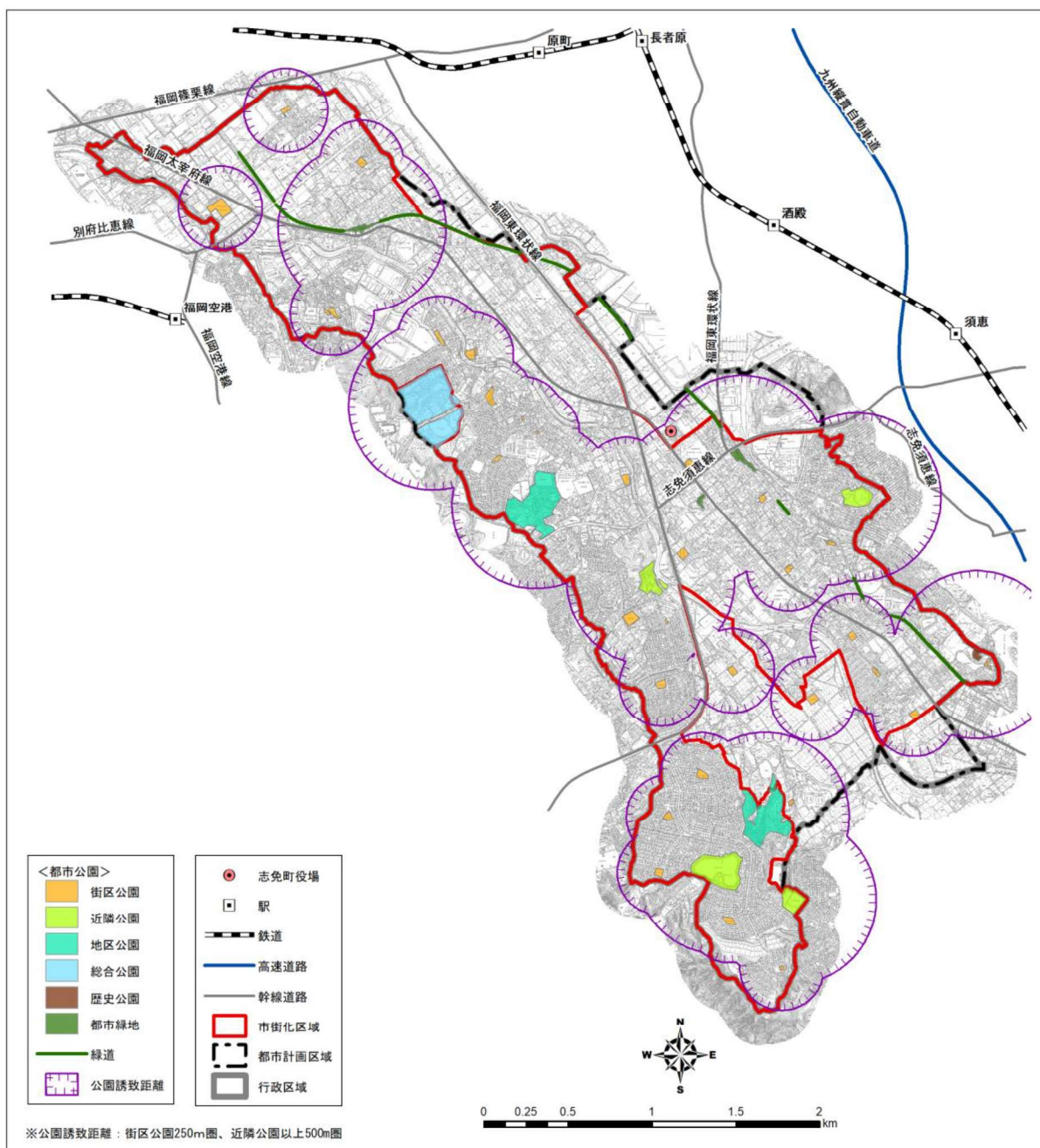


図 都市公園の整備状況

資料：志免町資料

④下水道

本町の下水道事業は、町全域が計画対象区域となっており、そのうち 92.8%が事業認可区域となっています。また、市街化調整区域と、市街化区域内の一部を除き、ほとんどの地区で供用開始されており、令和 18 年 3 月に町全域の整備を目指しています。

■下水道整備状況

名称	計画面積 (ha)	事業認可 (ha)	事業期間
志免町流域関連公共下水道事業	869	807.2	S. 62. 12. 10～R5. 3. 31

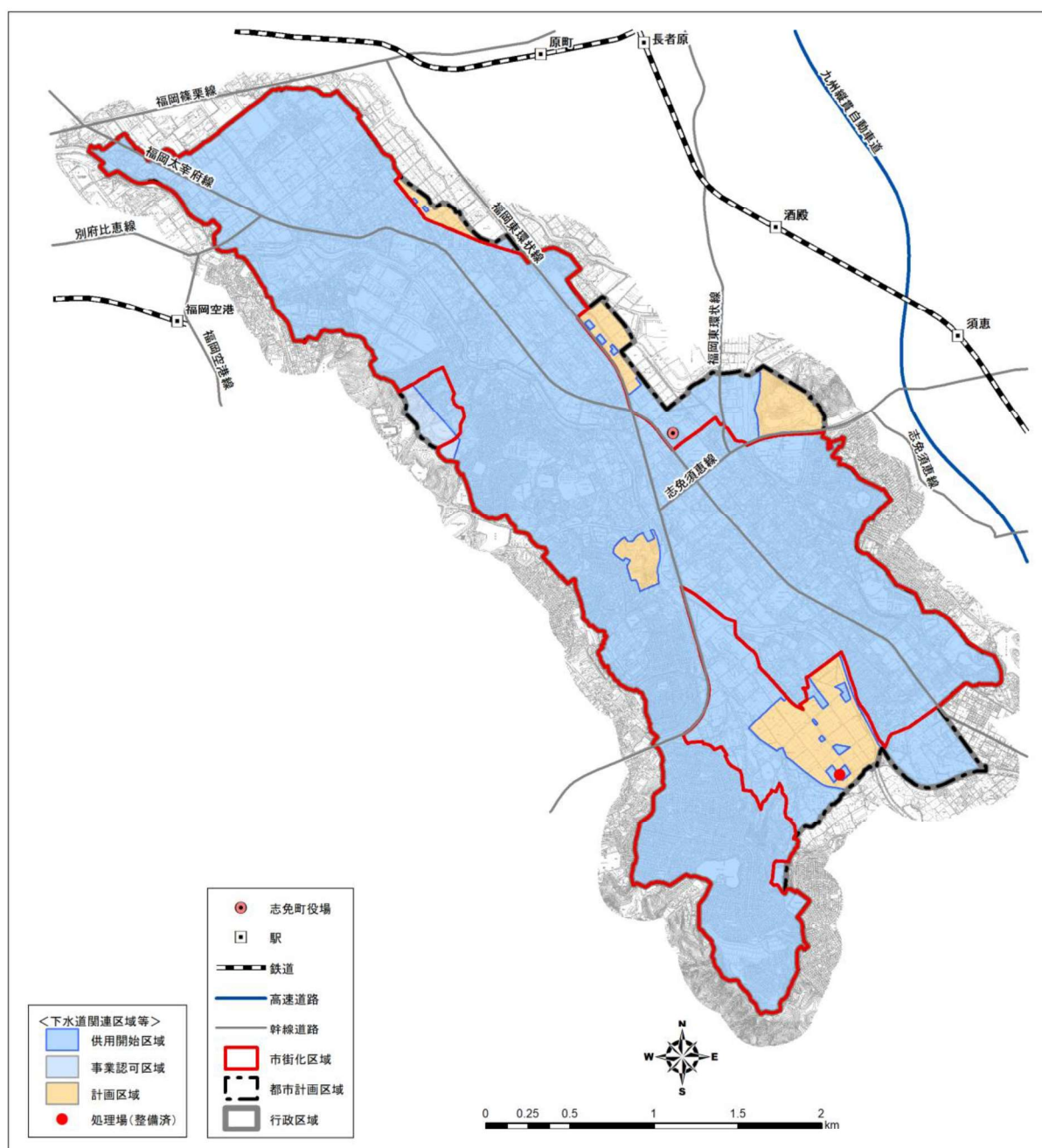


図 下水道の整備状況

資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

(6) 各種資源

本町には、南東から北西にかけて町の中央部を宇美川が流れ、町に潤いとゆとりを与える重要な景観資源として存在しています。

また、本町南東部付近には、炭鉱時代の象徴であるボタ山や竪坑櫓が見られる他、町内各地に古墳群等の歴史的資源が点在しています。

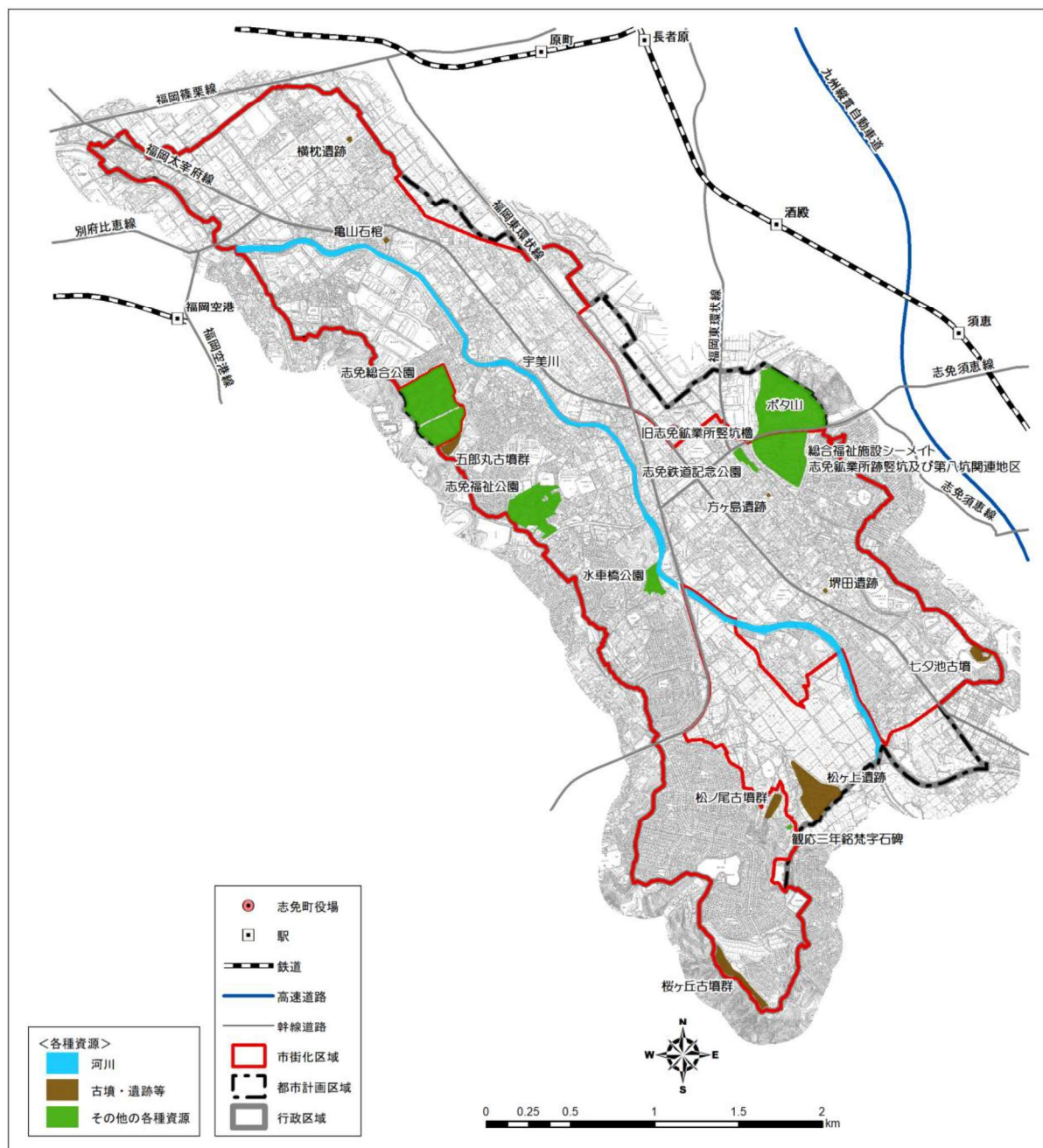


図 各種資源の分布状況

資料：平成 29 年度都市計画基礎調査より抜粋

(7) 災害

①土砂災害警戒区域

本町の土砂災害警戒区域の指定状況を見ると、別府西地区や王子地区、桜丘地区等の一部に 37 箇所の土砂災害特別警戒区域と、44 箇所の土砂災害警戒区域が指定されています。

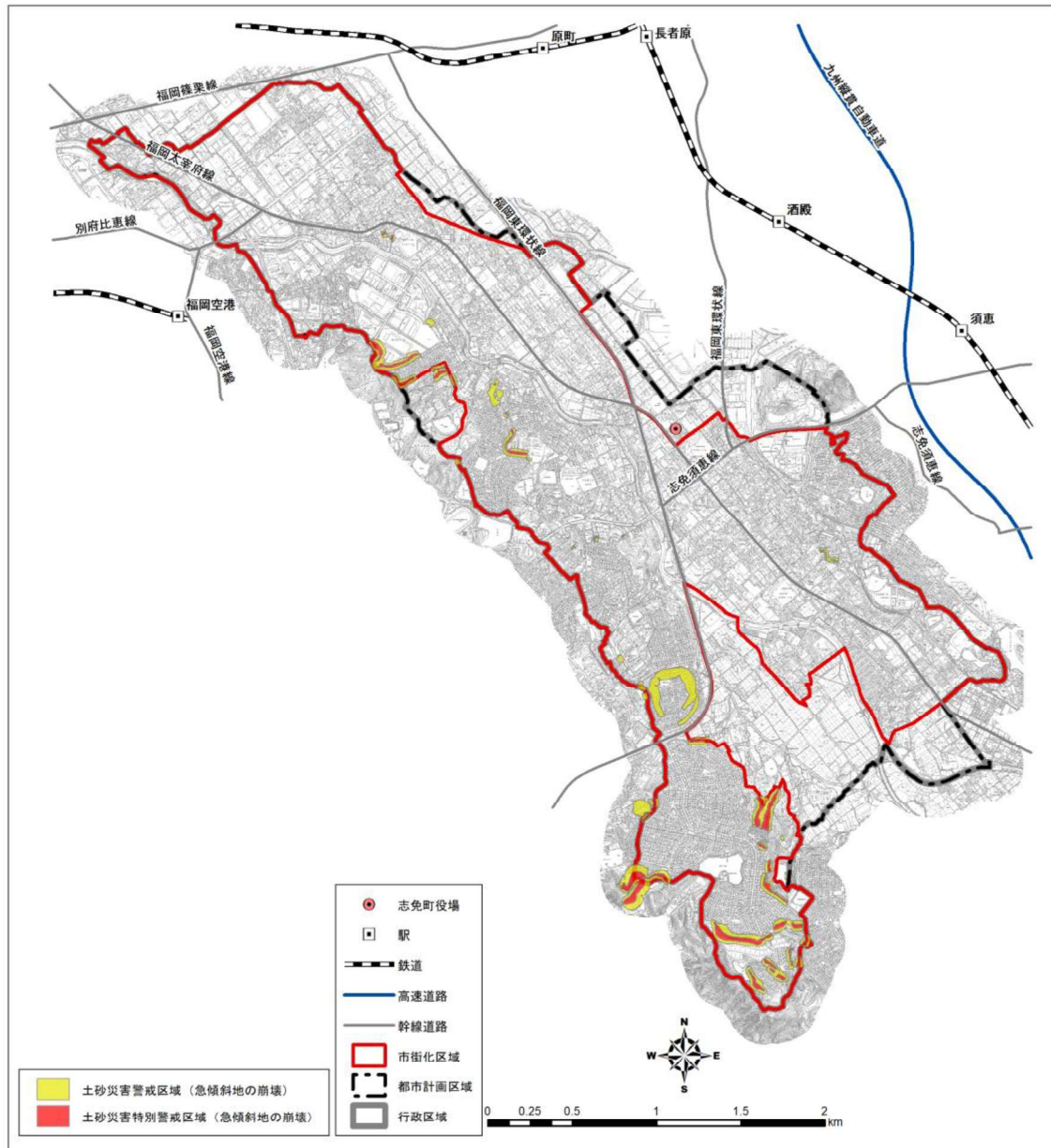


図 土砂災害警戒区域の分布

※土石流及び地滑りの警戒区域はなし

資料：国土数値情報

※土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合に、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがあると指定された区域。

※土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがあると指定された区域で、特定の開発行為※に対する許可制建築物の構造規制が行われる区域。

②洪水浸水想定区域・家屋倒壊等氾濫想定区域

本町の洪水浸水想定区域（想定最大規模）を見ると、宇美川の右岸側において、0.5～3.0m未満の浸水想定区域が広がっており、防災拠点となっている町役場も0.5m未満の浸水が想定されています。家屋倒壊等氾濫想定区域を見ると、宇美川沿いに指定されています。

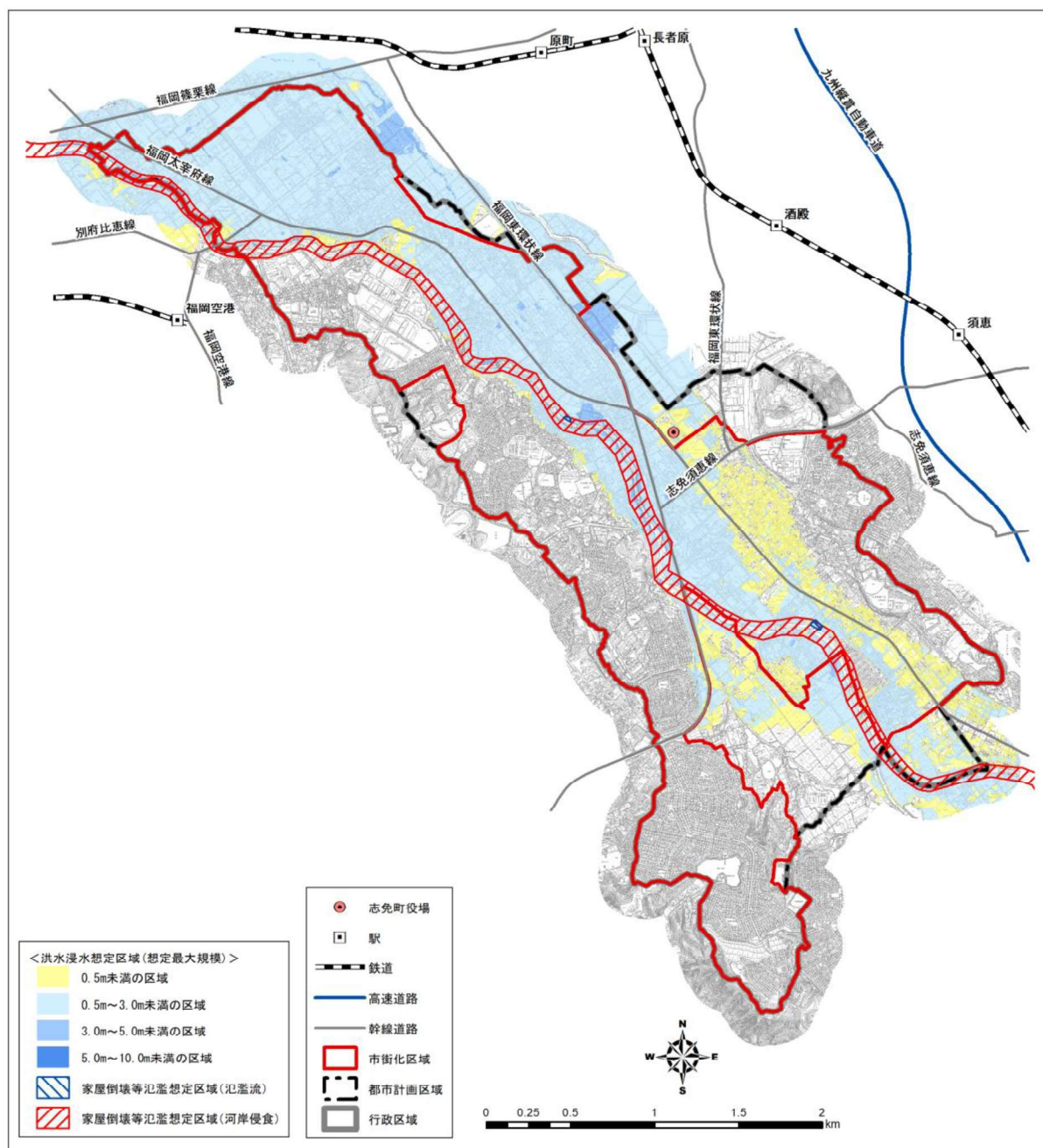


図 洪水浸水想定区域（想定最大規模）及び家屋倒壊等氾濫想定区域

資料：志免町資料

※洪水浸水想定区域（想定最大規模）

想定し得る最大規模の降雨により宇美川が氾濫した場合に、浸水が想定される区域と水深を示したもの。

※家屋倒壊等氾濫想定区域

想定最大規模降雨の場合に、家屋が倒壊するような氾濫流や河岸侵食が発生する恐れが高い区域。

③高潮浸水想定区域

玄界灘における高潮浸水想定区域を見ると、本町の北側の一部において、概ね0.5～3.0m未満の浸水が想定されています。

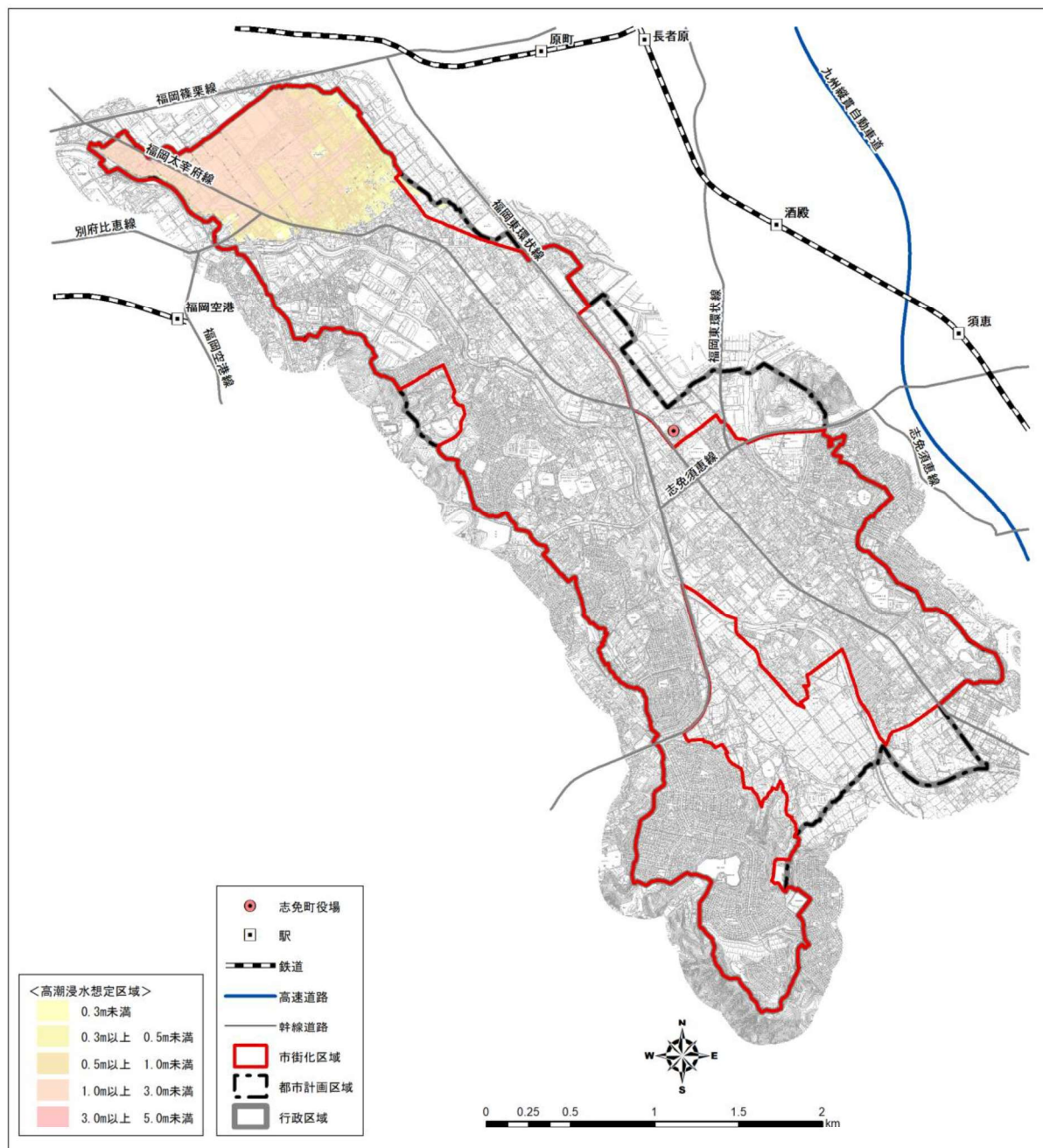


図 高潮浸水想定区域

資料：志免町資料

④避難所

本町の災害時の避難所については、志免町役場が防災拠点としてある他、小中学校や体育館、公民館等の公共施設を中心に 43 箇所が避難所に指定されています。

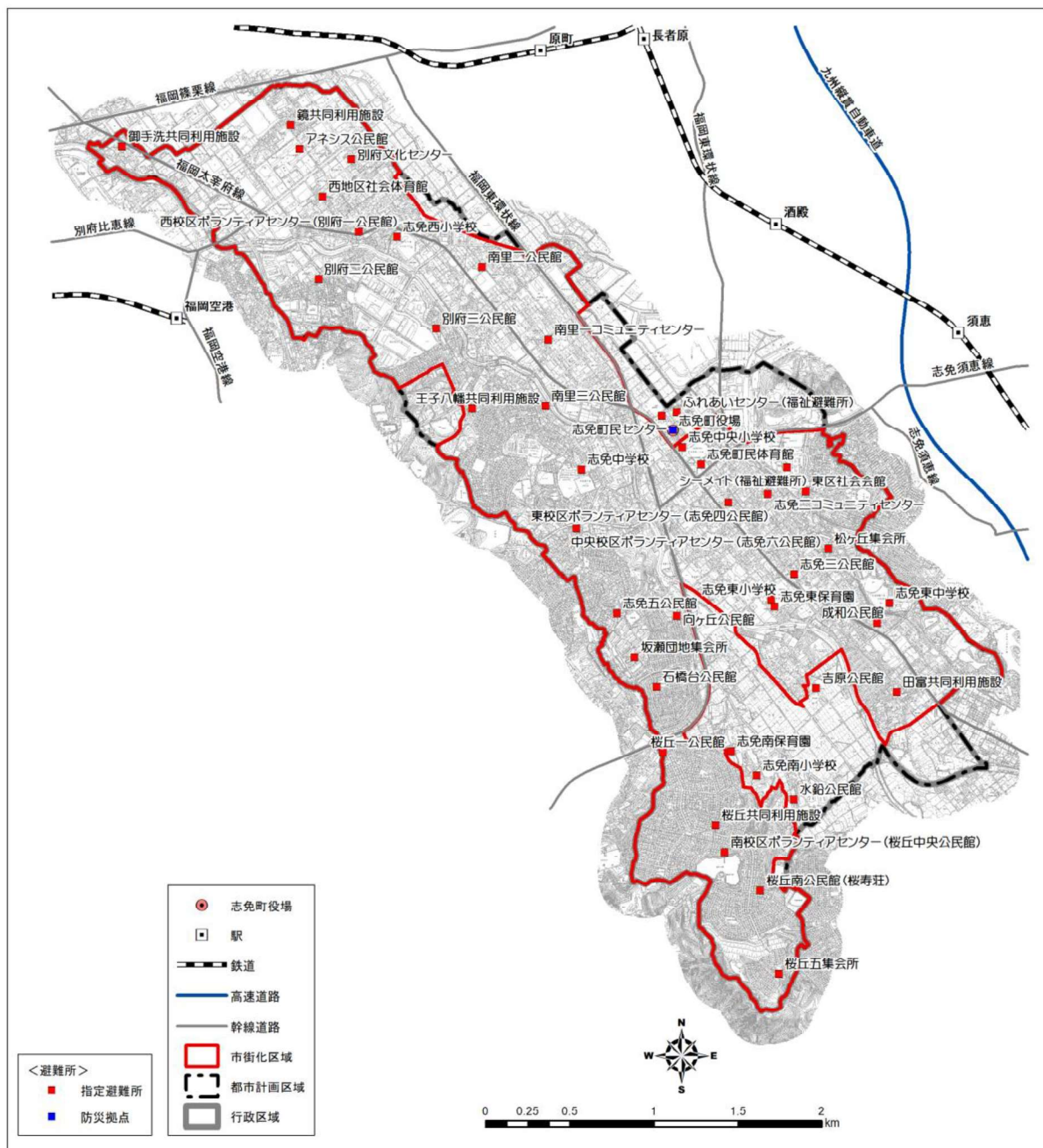


図 防災拠点・避難所の分布

資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

2-3 町民意向の把握

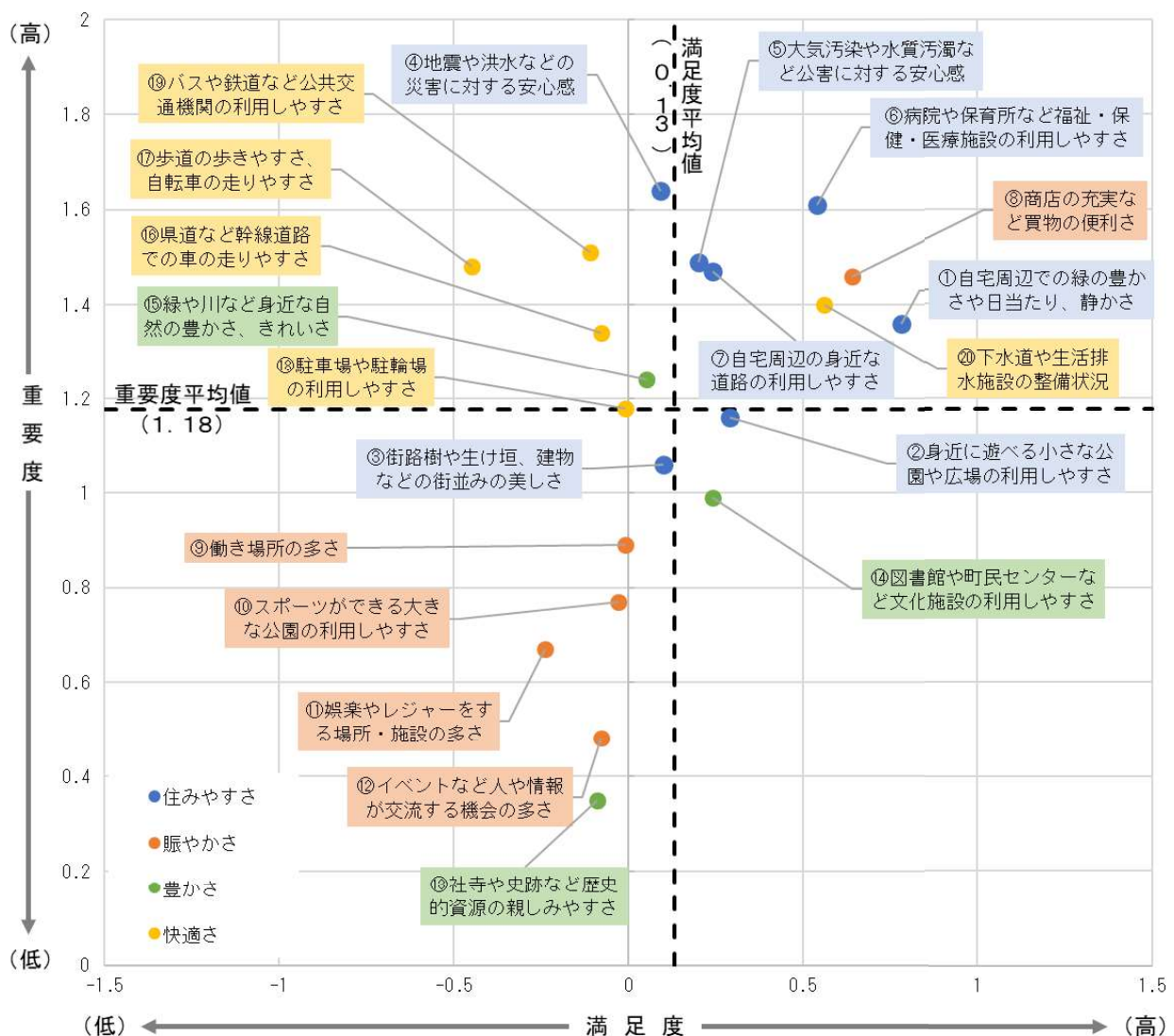
(1) 町民アンケート調査概要

調査期間	令和2年8月27日～9月11日の2週間
調査対象者	町内在住の18歳以上の町民2,000人
有効回収数（回収率）	752票（37.6%）

(2) 町民アンケート調査結果

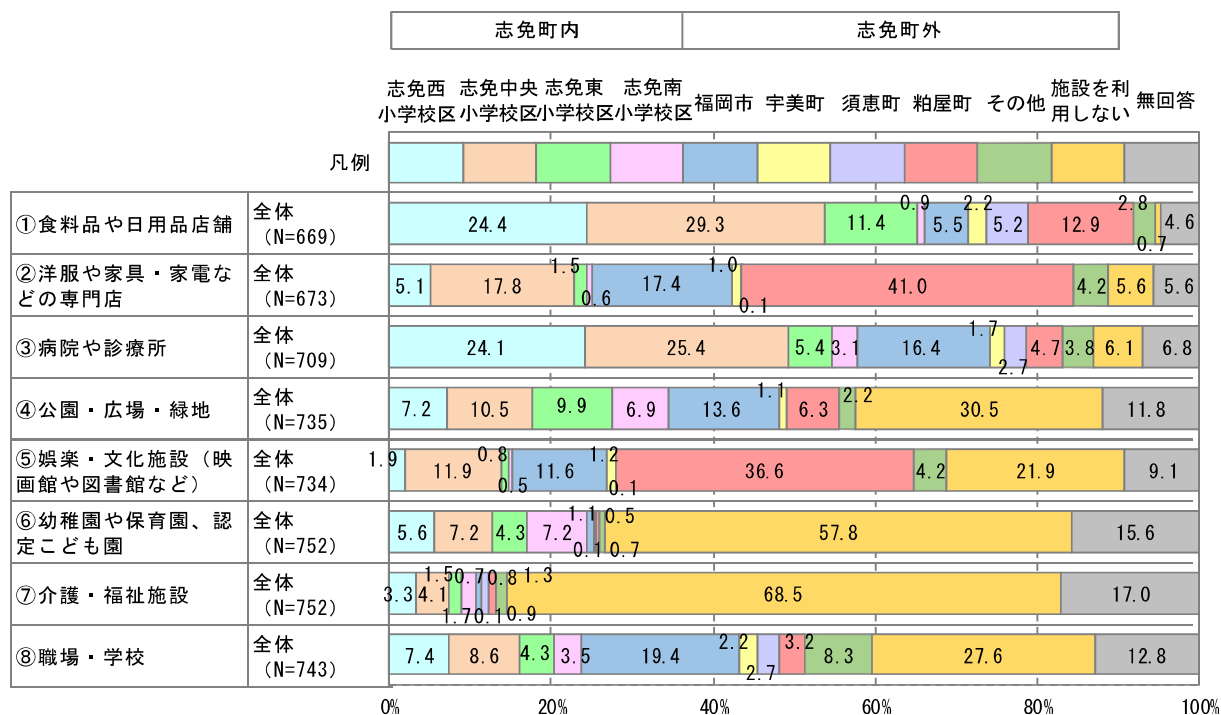
① 居住校区に対する満足度・重要度（全校区集計）

- ・「住みやすさ」に関する項目の多くは、満足度・重要度ともに高くなっています。一方で、「賑やかさ」に関する項目は、「⑧商店の充実など買物の便利さ」を除き、満足度・重要度ともに、比較的低くなっています。
- ・「快適さ」に関する項目の多くは、重要度は高いものの、満足度は比較的低くなっています。
- ・「豊かさ」に関する項目は、内容毎に、満足度・重要度のばらつきが見られます。



②日常生活で利用する施設の場所

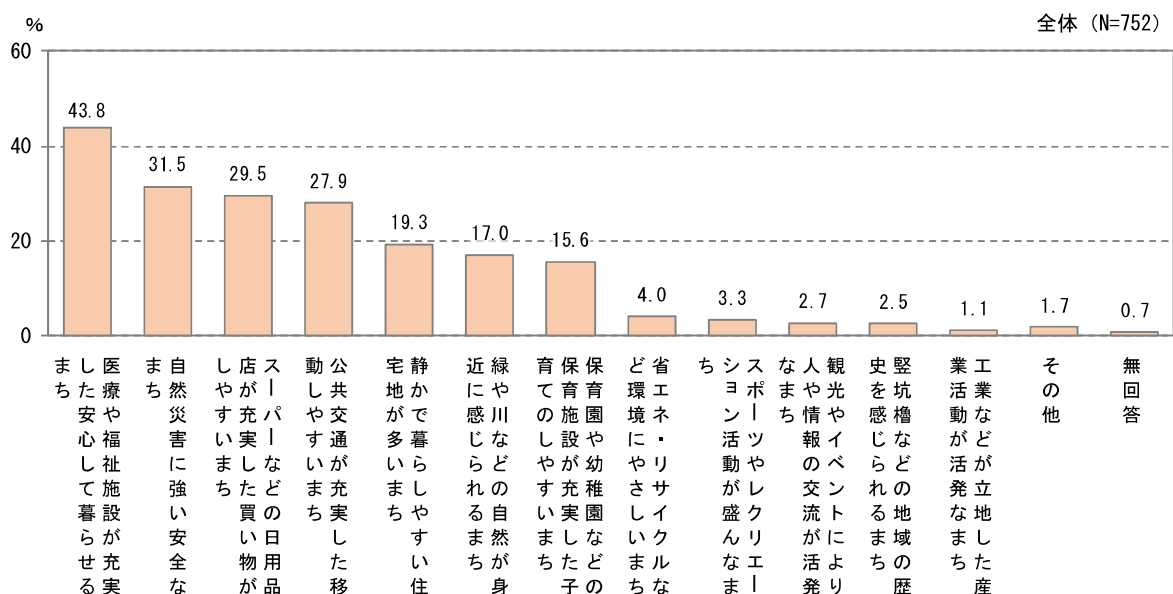
- ・「食料品や日用品店舗」や「病院や診療所」では、志免西・志免中央小学校区内の施設の利用割合が高くなっています。
- ・「洋服や家具・家電などの専門店」や「娯楽・文化施設」では、粕屋町の施設の利用割合が高くなっています。



※小数点第2位で四捨五入しているため、割合の合計値が100%にならないことがあります。

③将来のまちの姿

- ・将来のまちに求める姿は、「医療や福祉施設が充実した安心して暮らせるまち」が最も多く、次いで「自然災害に強い安全なまち」、「スーパーなどの日用品店が充実した買い物がしやすいまち」となっています。



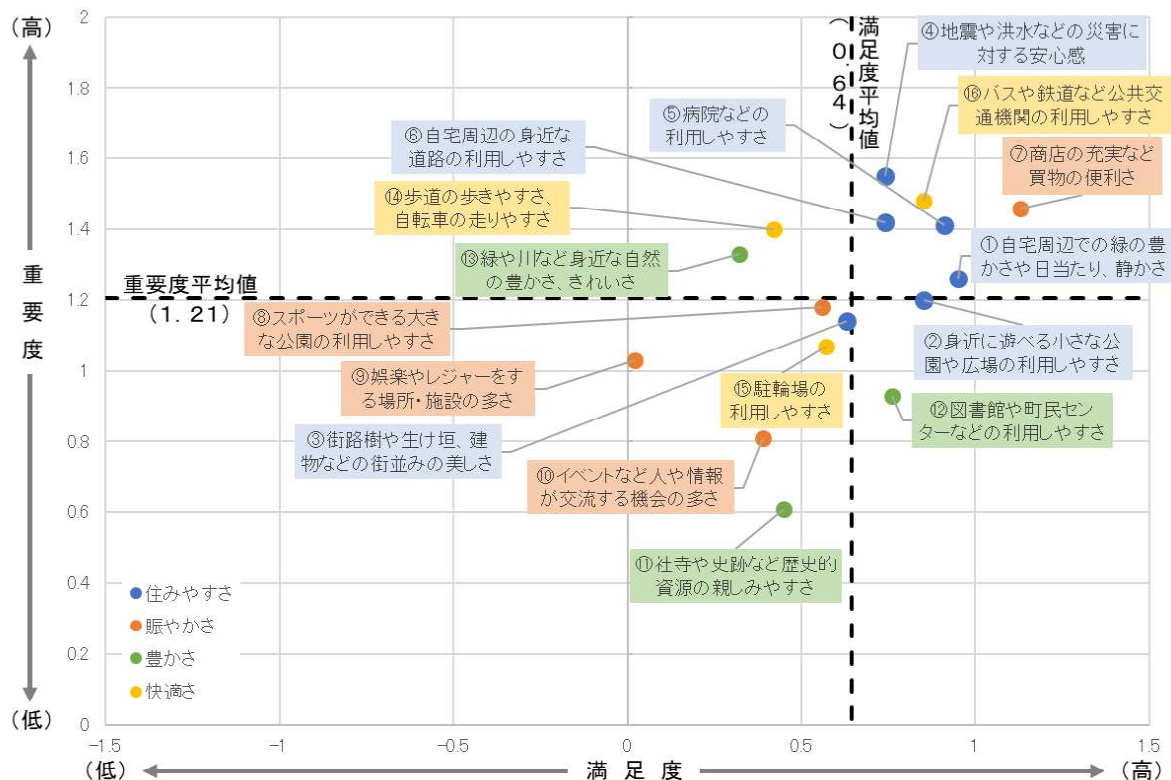
(3) 中学生アンケート調査概要

調査期間	令和2年8月下旬
調査対象者	志免中学校・志免東中学校3年生
回収数	434票（志免中学校：284票、志免東中学校：150票）

(4) 中学生アンケート調査結果

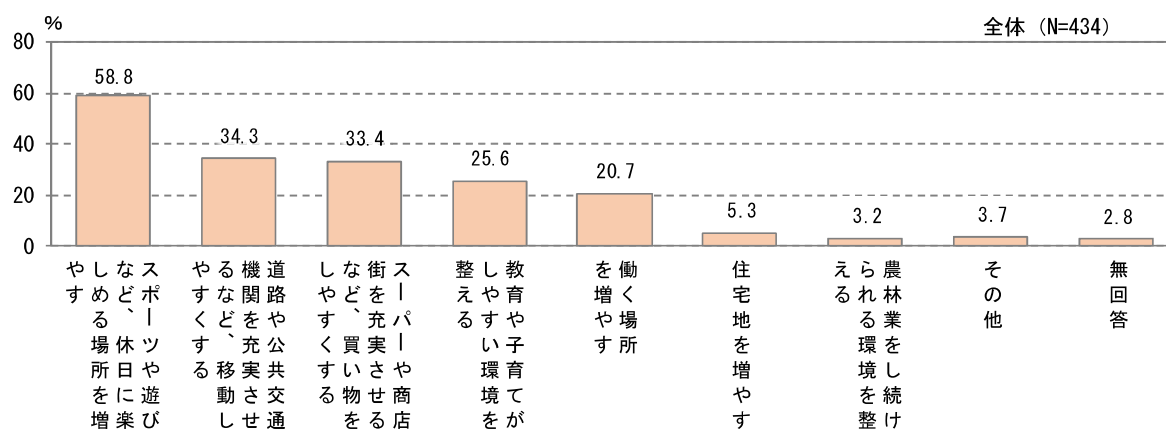
① 居住校区に対する満足度・重要度（全校区集計）

- ・「住みやすさ」に関する項目の多くは、満足度・重要度ともに高くなっています。一方で、「賑やかさ」に関する項目は、「⑦商店の充実など買物の便利さ」を除き、満足度・重要度ともに、比較的低くなっています。
- ・「豊かさ」や「快適さ」に関する項目は、内容毎に満足度・重要度のばらつきが見られます。



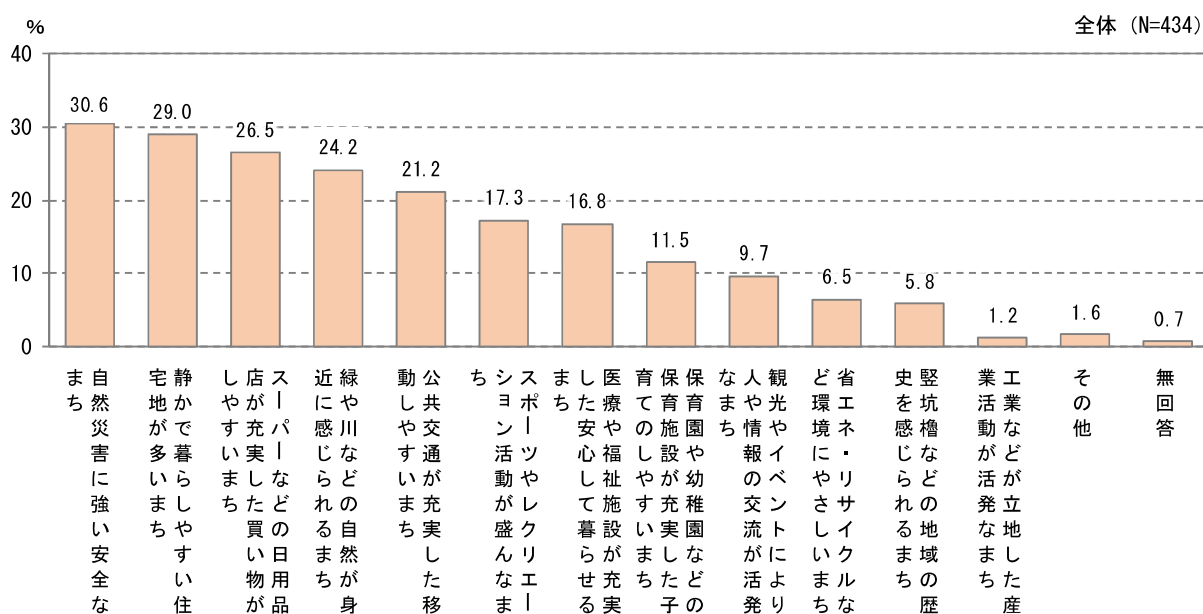
②若い世代の定住促進に向けた取組

・「スポーツや遊びなど、休日に楽しめる場所を増やす」が最も多く、次いで「道路や公共交通機関を充実させるなど、移動しやすくする」、「スーパーや商店街を充実させるなど、買い物をしやすくする」となっています。



③将来のまちの姿

・将来のまちに求める姿は、「自然災害に強い安全なまち」が最も多く、次いで「静かで暮らしやすい住宅地が多いまち」、「スーパーなどの日用品店が充実した買い物がしやすいまち」となっています。



2-4 志免町の特性と課題

《上位関連計画の改定等からの課題》

- ・「福岡都市圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」⇒「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりが必要。
- ・「第6次志免町総合計画」⇒計画的な土地利用政策による効率的なまちづくりや防災対策、事前防災の取組等による災害に強いまちづくり、町民と行政による協働のまちづくりが必要。
- ・「志免町まち・ひと・しごと創生総合戦略」⇒定住促進に向けた子育て環境の充実等の子育てに配慮した取組が必要。
- ・「志免町公共施設等総合管理計画」⇒都市基盤[※]や公共施設のバリアフリー[※]化等の福祉面に配慮した社会資本整備が必要。

《志免町の現状》		《都市の現況把握、人口の将来見通し、町民意向の把握に関する分析に基づく課題》	
産業人口・	・本町の将来人口は、令和22年まで年々増加する予測。 ・町外への就業者の流出及び周辺市町からの就業者の流入が半数を占める。 ・商業及び農業の衰退が見られ、工業従業者数と製造品出荷額等は近年やや増加傾向。	▶	・人口増加に対応した新たな居住地の確保が必要。 ・就業人口の確保に向けた周辺市町との交通連携の強化や地域特性に応じた産業促進が必要。 ・耕作放棄地対策等の取り組みが必要。
土地利用及び都市機能	・本町の土地利用は住宅用地が最も多くを占める。 ・県道福岡東環状線及び県道福岡太宰府線の沿道に商業施設や医療施設等の都市機能[※]が集積。 ・準工業地域内には工業のみならず商業や住居系施設が混在。 ・市街化区域内の未利用地は、比較的小規模なものが各地に点在。	▶	・土地利用状況に応じた適正な土地利用転換が必要。 ・交通環境を活かした新たな産業立地の促進による企業が参入しやすい環境の創出が必要。 ・地域活力の維持に向けた商業地域の魅力づくりや都市機能の集約による拠点性の向上が必要。 ・将来的な居住地の確保に向けた低未利用地[※]の有効活用が必要。
交通	・路線バス及び福祉巡回バスの運行により、市街化区域の多くは町内の公共交通圏域に含まれる。 ・町内の道路の多くは、4m以上12m未満の幅員となっているが、4m未満の道路も各所に見られる。	▶	・町内の拠点間や周辺市町村との連携強化に向けた公共交通ネットワークの更なる充実が必要。 ・都市計画道路の整備や幹線道路の機能強化、歩行者空間の確保が必要。 ・既成市街地内の狭あい道路の解消等、市街地の再整備による生活環境の改善が必要。
都市施設その他	・下水道は、市街化調整区域と市街化区域内の一部を除き、ほとんどの地区で供用開始している。 ・本町の都市公園は、町役場より南部の地域の整備率が高い等、地域によって差が見られる。 ・本町の中央部を南東から北西に宇美川と須川が流れる。	▶	・下水道等の都市施設の計画的整備及び、持続性や安全性、強靱性のある都市施設の整備が必要。 ・アクセス性の向上など公園の利便性の向上に向けた取組が必要。 ・河川における治水対策の推進及び親水性のある水辺環境整備の推進が必要。
都市生活環境・都市景観	・町の中央部を流れる宇美川は、町に潤いとゆとりを与える重要な地域資源である。 ・炭鉱時代の象徴であるボタ山や竪坑櫓が見られる他、町内各地に古墳群等の歴史的資源が点在。	▶	・屋外広告物等の規制や沿道の緑化等による幹線道路沿道の街並み景観の形成が必要。 ・市街地内緑化、景観に配慮した街並み形成など、街の個性を活かした取組が必要。 ・竪坑櫓などの地域の文化・歴史的資源を活用した地域活性化の取組が必要。
都市防災	・災害ハザードエリア[※]（洪水浸水、土砂災害、高潮浸水等）が町内に指定されている。 ・避難所は、公共施設を中心に43箇所の避難所が指定されている。	▶	・災害に強いまちに向けた防災対策が必要。 ・災害時の避難に関する情報の周知の徹底や避難経路の整備等、避難時の対策が必要。
町民意向	・交通環境などの「快適さ」に関して、将来の重要度は高いものの、現在の満足度は比較的低くなっている。 ・小学校区別の満足度では、地域毎に現状の満足度の高い項目が異なっている。 ・今後の取組では、福祉・保健・医療施設や歩いて利用できるスーパー等の充実、周辺市町村への移動を含めた公共交通の充実、災害への対応を望む意見が多い。	▶	・地域特性に応じたまちづくりの対応が必要。 ・各地域に日常の買物ができる近隣商業地を確保することが必要。 ・公共公益施設のバリアフリー化や福祉・保健・医療施設の充実等が必要。 ・歩行者空間の確保や狭あい道路の解消等の道路空間の環境改善、公共交通の充実が必要。 ・防災対策による安全・安心なまちづくりが必要。

